

平成 31 年度（2019 年度）事業報告

本財団で行う研修及び研究

本財団は、設立以来専ら精神分析の研修、研究事業を実施することによりわが国の精神保健の向上のため努力し、相当の成果を上げている。本年度もこれらの方針を継続し、下記事業を実施しました。医師等に対する精神分析及精神分析療法に関する研修事業として、通年セミナー14件(うちワークショップ3件、新規セミナー1件)、単発セミナー6件(うち1件中止)、出版・広報事業1件を実施しました。各セミナー全体の担当役員として教育研修委員長がこれにあたりました。

I. 研修事業

1. 通年セミナー

(1) 小寺精神分析研究セミナー（第 25 期）

テーマ：「私の一冊」

概略：過去二年は、精神分析と他の臨床領域のつながり、そして精神分析技法の現在をテーマに開催してまいりました。今年も、精神分析を学ぶ、ということに主題をおいて計画し実施しました。精神分析の学びには書物との対話が欠かせません。精神分析家・セラピストとしての自分の形成に大きな影響を受けた本を誰もがもっています。ここではそのような本を先達に紹介していただき、概説だけでなく、どのようなパーソナルなインパクトがあったのか、精神分析訓練において本を読むことの意義はどんなものか語っていただきました。

25期をもって、本セミナーは終了し、次年度から新たなセミナーを開始いたします。

対象：精神分析に関心があり、臨床実践を行っており、守秘義務を負っている方。

開催期間：2019年5月～2020年3月、月1回

第3土曜日原則、午後7時～9時、全10回

開催場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

参加人数：41名

運営方法：講師にお話しいただき、毎回指定討論者をお願いしました。司会は11月以外は藤山直樹が担当（11月は岡田暁宜）

※10月12日は台風による交通障害のため、3月21日はCovid19感染拡大防止のため外出自粛要請が発令されたため、対面でのセミナーは休止しました。それぞれの回では、講師による紙上講義録、討論者の討論原稿を参加者に郵送いたしました。

企画及び担当：藤山直樹

日時	講師	私の一冊	討論者
5月18日	北山 修	『古事記』(特に伊弉諾・伊弉諾神話)	西 見奈子
6月15日	富樫公一	『乳児研究と成人の精神分析』	吉村 聡
7月20日	妙木浩之	『ピグルーある少女の精神分析的治療の記録』	藤内栄太
9月21日	木部則雄	『赤ちゃん部屋のおばけ』 母子臨床の精神力動より	奥寺 崇
10月12日	岡田暁宜	『欲動、自我、対象、自己—精神分析理論の臨床的総合』	池田政俊
11月16日	藤山直樹	『こころのマトリックス』	小林要二
12月21日	権 成鉉	『転移と逆転移』 現代精神分析叢書第2期第9巻	相田信男
1月18日	吾妻 壮	『フロイト その自我の軌跡』	白波瀬丈一郎
2月15日	十川幸司	『精神分析における話と言語活動の機能と領野』	池田暁史
3月21日	松木邦裕	『精神分析入門』	岡野憲一郎

(2) 体験グループセミナー (第 25 期)

目的：精神分析、力動的力動的精神療法の方向付けを基本とした、グループダイナミックスの学習、自己理解の深化をワークショップ形式のグループ体験を通して得る機会の提供を目的とする。

対象：すでに個人精神療法の経験をもち、心理学、力動精神医学的知識と実践があることを基本条件にしています。

基本を2年コースと考えているので原則として2年目の参加者を優先。

講師：鈴木純一・相田信男

開催期間：2019年5月～2020年3月、月1回

第4金曜日原則、午後7時～8時30分、全10回

場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

定員：28名

企画者：相田信男

担当委員：相田信男

(3) グループ理論研究セミナー (第 24 期)

目的：精神分析、力動的医学を基礎におく集団精神療法の臨床または指導者の養成を、理論的学習、とりわけ事例をめぐるスーパービジョンを通して達成することを目的とする。

対象：何らかの臨床グループあるいはトレーニング・グループなど、実際グループに参加した経験のある、守秘義務をもつ専門家で、ことに事例提供が可能な方を原則とする。

講師：鈴木純一・相田信男

開催期間：2019年5月～2020年)3月、月1回

第2土曜日、午後2時～5時 全10回

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：41名

企画者：相田信男

担当委員：相田信男

※10月12日は台風による交通機関の乱れのため、3月14日はCovid19感染拡大防止のため外出自粛要請が発令され、セミナー開催が不可能であるとの判断から参加費を返金いたしました。

(4) 力動的家族療法セミナー (第 17 期)

目的：力動的な家族療法を中心とした家族面接と評価の方法、ジェノグラムジェノグラムの書き方、介入技法など。

対象：個人精神療法に関する何らかの研修(セミナーあるいはスーパービジョンなど)を受けているか、受けたことのある方。大学院生も受講可。

講師：中村伸一・渡辺俊之・野末武義・岩井昌也・北島歩美

開催期間：2019年6月～2020年3月、月1回

原則第4土曜日、午後2時～5時 全10回

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：14名

企画者：中村伸一

担当委員：中村伸一

(5) 小寺臨床講読セミナー

—現代クライン派の系統的理解(第IV期)—：3. クラインからクライン派へ

目的：第IV期3年目の本年度は、現代のクライン派の仕事を上げました。邦訳のある文献から最新の The Klein Tradition (Lines of Development)まで、主題ごとに初学者の方が参加しやすいようにしました。経験ある方が、再度勉強する機会にもなります。本年度からの参加も可能です。

対象：テキストを読んで毎回参加できる方。年に何回かレジュメ作成・発表を担当。

講師：福本 修・平井正三(特別講師)

開催期間：2019年4月以降の第2金曜、原則として午後7時～10、全12回

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：15名

企画者：福本 修

担当委員：福本 修

(6) 小寺臨床講読ワークショップ

—フロイトの系統的理解(V期)—：2. 精神分析の完成期(1910-1920)

目的：本ワークショップは、参加時間の中でフロイト読解を体験して、精神分析の〈現場〉へと赴くことを目指します。2019年度は、完成期に入ったフロイトによるナルシズム・精神病への新たな取り組みと、技法論文およびメタ心理学論文に含まれている興味深い概念を取り上げると同時に、臨場感ある現代論文を参照します。

フロイトの著作は今も基本であり発想の源泉ですが、読み進めるのは、容易ではありません。精神分析が理論的にも臨床的にも整備された1910年代の著作は、創成期に比べれば取っ付きやすくても、対象関係論や現代の精神分析とはまだ距離があります。グループで読み進めることによって、理解は深まり、初学者の方も経験ある方も、新鮮なフロイトに触れることができるでしょう。3年間で全体をカバーする予定です。

対象：テキストを読んで毎回参加できる方。臨床経験の多寡は問いません。

講師：福本 修、十川幸司

開催期間：2019年4月以降の第三金曜、午後7時～10時、全12回

7月はお休み

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：18名 3/20のみ参加者4名

企画者：福本 修

担当委員：福本 修

※3月20日通常のワークショップの午後、『特別編』を開催、講師十川幸司先生

(7) 精神分析的な心理療法セミナー (第11回)

目的：本年度のセミナーは、原則として月一回、年間11回開催です。祝日を利用して一日に2事例を検討する特別セッションもあります。助言者として講師をお招きしますが、参加者が助言を担当することもあります。また、参加者には毎回、司会も担当していただきます。事例をめぐる活発な討論を期待しますので、積極

的に参加できる方を歓迎します。

対 象：中堅以上の心理療法家で、十分な臨床経験と研修歴をお持ちの方

講 師：中村留貴子、深津千賀子、妙木浩之、平井正三、岩倉拓 他

開催期間：2019年4月～2020年3月

原則として、第一金曜日、午後7時30分～9時30分 全11回

日曜日などに特別セッションを設けた。

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：12名（1年コースとし、毎年募集しますが再受講も可）

企 画 者：中村留貴子

担当委員：岡野憲一郎

（8）臨床家のための、産業メンタルヘルス実践セミナー

①ベーシックコース（第7回）

目 的：このセミナーでは、産業メンタルヘルス領域で働くための実践能力の養成を目的とします。ベーシックコースでは、精神力動的な考え方に基づいたメンタルヘルス支援プログラム（KEAP：キープ KEIO Employee Assistance Program）について紹介します。KEAPは、2009年から本セミナーの企画者である白波瀬が企業と共同開発を行い、展開しているプログラムです。その実践活動に基づき、産業メンタルヘルスに関する、精神分析的および力動精神医学的な知見を蓄積しています。それは、高い臨床能力と柔軟なコミュニケーション能力、および全体を見渡す俯瞰力とバランス感覚などです。これらの知見を、講義とシナリオ・ロールプレイを通して学びます。

対 象：臨床心理士、精神科医、産業医、産業看護職、精神保健福祉士等、守秘義務のある臨床家の方々

講 師：白波瀬丈一郎（精神科医：東京都立済生会中央病院）、佐渡充洋（精神科医：慶應義塾大学）、三浦有紀（臨床心理士：東京都立済生会中央病院）、三柴丈典（法律家：近畿大学）

日 程：2019年10月～2020年2月まで月1回、全5回

13：30～17：30

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：13名

企 画 者：白波瀬丈一郎

担当委員：白波瀬丈一郎

※10月13日は台風による交通障害のため、3月13日に延期しましたが、Covid19感染拡大防止のための外出自粛要請発令のため中止し3月分のセミナー参加費を返金しました。

②アドバンストコース（第2回）

目 的：このセミナーは、産業メンタルヘルス領域で働くための実践能力の養成を目的とします。アドバンストコースは、ベーシックコース修了者を対象としたコースで、事例検討を通して、産業メンタルヘルスの考え方や関わり方を学びます。

事例検討は、精神分析的および精神力動的な考え方に基づいたメンタルヘルス支援プログラム（KEAP：キープ KEIO Employee Assistance Program）の実践活動で得られた知見に基づいて行います。しかし、検討対象とするのは産業領域に限定しません。日々の臨床実践や現場で困っていることについても積極的に議論します。

対 象：2017年度までの「臨床家のための、産業メンタルヘルスセミナー」、「臨床家のための産業メンタルヘルス実践セミナー」修了者

講 師：白波瀬丈一郎（精神科医：東京都立済生会中央病院）、三浦有紀（臨床心理士：東京都立

済生会中央病院)

開催日時：2019年4月から2020年2月まで月1回第2日曜日、
全10回。9月は休み。10：00～12：00

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：8名

企画者：白波瀬丈一郎

担当委員：白波瀬丈一郎

※10月13日は台風による交通障害のため、3月8日に延期しました。

(9) 精神分析志塾（第4回）

目的：本志塾は開講4年目となります。中堅臨床家の方たちの力量向上を意図して、限定されたメンバーによるクローズド・ワークショップの形態を取ります。精神分析や精神分析的な精神療法/心理療法での臨床力強化を図りながら、分析的経験から濃く学び、創造力を高めることを目指します。

対象：中堅臨床家

講師：松木邦裕

開催期間：2019年4月～2020年3月 全11回

10：30～15：50

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：20名

企画者：松木邦裕

担当委員：奥寺 崇

(10) 「子どもの心の発達セミナー——発達障害をもつ児童青年の心の理解——」（第4回）

目的：2019年度は、医療の場でのご経験が豊かな齊藤万比古先生、森野百合子先生、そして、児童期および思春期のグループに長く取り組んでおられる西村馨先生に講義いただきます。発達障害をもつ児童青年の心についての知見を広め、理解を深め、臨床の場で臨床家/治療者ができることについてあらためて考える機会になればと思います。前半は講義、後半は事例検討を予定しています。小規模セミナーであることを生かして、講師と受講者との間の質疑応答や討論からも受講者が積極的に学ぶことができ、日々の臨床につながるセミナーを目指しています。

対象：子どもや思春期青年期の心理療法に携っている臨床家、近接領域の専門家、大学院生

講師：齋藤万比古、西村馨、森野百合子

司会：脇谷順子

開催日時：2019年5月26日（日）、12月15日（日）、2020年1月26日（日）

13：00～17：00

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：22名

企画者：脇谷順子

担当委員：脇谷順子

(1 1) 乳幼児観察セミナー (第 4 回)

目 的：乳幼児観察は精神分析の基礎訓練だけでなく、こどもと関わる専門職にとっても大きな貢献と知見を与えます。今年度からは、この 3 年間の基礎理論と実践から、その応用について、講演を行っていきます。まず、今年度は乳幼児観察の展開としての心理臨床フィールドと NICU に焦点を当てます。また、本セミナーは我が国で行われている乳幼児観察に関する研究会の中心となるようなフィールドとなることを目論んでいます。

対 象：乳幼児観察の終了者、乳幼児観察に関心を持つ人であれば、職種は問いません。

講 師：木部則雄、鈴木龍、脇谷順子、橋本洋子

開催日時：2019 年 9 月 22 日 (日)、2020 年 3 月 15 日 (日)

13:00~17:00

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：19 名

企 画 者：木部則雄

担当委員：木部則雄

(1 2) 自我心理学臨床セミナー：現代の自我心理学 (第 4 回)

目 的：今回のシリーズは、現代の自我心理学的な臨床が、対象関係論や自己心理学との対話のなかで、どのような形で生き残ってきたのか、について考えたいと思います。そのためセミナーが対象とするのは自我心理学の特徴を受け継いでいる流れ、抵抗分析、メンタライゼーション、転移焦点化療法、そして現代自我心理学派 (F. パインズや F. ブッシュ) などです。

対 象：自我心理学に興味があり、臨床を行っている方 (経験の多寡は問いません)

講 師：岡田暁宜、東啓悟、鳥越淳一

司会・進行：妙木浩之

開催日時：2019 年 5 月～2020 年 3 月 第 4 日曜日原則 午前 10 時～12 時 全 7 回

(7 月、11 月、1 月、2 月はお休み)

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：16 名

企 画 者：妙木浩之

担当委員：岡野憲一郎

(1 3) ビデオ録画セミナー ビデオ録画による初回面接 (3 回)

目 的：本セミナーは、精神分析的な心理療法家を目指す臨床家たちのために、ビデオによる訓練とその連想を広げる作業を実践するものです。

初回面接のロールプレイ記録を使ってビデオに登場する患者役および治療者役に講師として参加してもらって、それぞれの場面で考えたことをディスカッションしながら、妙木が談話から読み取れる転移の推移を解説する形をとります。

対 象：ビデオによる訓練に興味があり、臨床を行っている方 (経験の多寡は問いません)

講 師：妙木浩之、東 啓悟、片岡岳、小林陵、重宗祥子、山崎孝明、天野雄一、千葉ちよ坂本優子、熊谷秀樹、野村真睦

司 会：加茂聡子

解 説：妙木浩之

開催日時：7月29日、8月19日、10月21日、11月18日、12月16日、1月20日

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：14名

企画者：妙木浩之

担当委員：岡野憲一郎

※通年セミナーは今期で終了し、次年度は単発セミナーとして実施します。

(14) 英国独立学派の講読セミナー（新規）

目 的：開講初年度の今年は10回にわたり、フェレンツィ、バリント、フェアバーン、ウィニコットという理論家の主要な文献について理解を深めます。各回2～4本の文献を指定し、予め割り振った担当者がレジюмеを作成しそのプレゼンテーションと他の参加者のそれぞれの文献に関する質問を中心にセミナーリーダーが全体の理解をファシリテートします。

開催日時：2019年5月以降 原則第3日曜日 全10回（5月のみ第4、8月はお休み）

開催場所：クリニックおくでら（小田急小田原線 経堂駅 徒歩5分）

講 師：奥寺 崇

対 象：フロイト理論の系統講義（基礎講座、精神分析セミナー）セミナーの受講経験がある専門家

参加人数：6名

企画者：奥寺 崇

担当委員：奥寺 崇

2. 単発セミナー

(1) 精神分析—医学生・研修医セミナー（第12回）

目 的：臨床医をめざす医学生・研修医に、人間の心を深く見つめる精神分析の世界について、充実した内容をコンパクトに解説するものです。

開催日時：2019年7月14日（日）・15日（月・祝）

開催場所：小寺記念精神分析研究財団 セミナールーム

講 師：北山修・白波瀬丈一郎・高野 晶・藤山直樹・池田暁史・小林要二

対 象：初期/後期研修医、医学部5・6年生を優先

参加人数：医学生6名、研修医8名

内 容：レクチャーおよび分析家オフィス見学

企画者：池田暁史

担当委員：池田暁史

(2) 関係性精神療法セミナー（第9回）

「関係精神分析と女性論者たち」

目 的：今年は、「関係精神分析と女性論者たち」と題して開催する。関係精神分析は、ミッチェルらによる精神分析再検証の流れに、フェミニズム精神分析の考えが合流してその源流を作ったという歴史もあって、女性論者たちの考えを抜きに論じることにはできません。しかし、私たちのこれまでのさまざまな議論でも、女性論者という切り口から行ったものは多

くはありません。今年私たちがとり上げる論者は、ジェシカ・ベンジャミン、ドナ・オレンジ、ジェーン・ギャロップらです。関係精神分析における二つの intersubjectivity（間主観性）の理解や、フェミニズム精神分析の感性の理解を深め、関係精神分析とは一体何なのかについて、初学者にも分かり易く、また最新の知見も交えて解説します。さらに、参加者と積極的に対話を行う予定です。

対 象：精神分析に興味があり、臨床実践を行っている方

開催日時：2019年7月28日（日）午前10時～午後3時

開催場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

対 象：精神分析に興味があり、臨床実践を行っている方

発 表 者：富樫 公一（甲南大学）、吾妻 壮（上智大学）、岡野憲一郎（京都大学）

司 会：岡野憲一郎

参加人数：29名

企 画 者：岡野憲一郎

担当委員：岡野憲一郎

（3）『タヴィストックセミナー』（第12回）

異なる『文化』が出会うとき —英国での体験と帰国後の体験をふまえて—

目 的：本年度は、2018年度に引き続き大人の治療を取り上げて、タヴィストック・クリニック成人部門のトレーニングを修了され現在大阪でご活躍の仙道由香先生をお迎えします。

開催日時：2019年11月17日（日）午後1時～5時

開催場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

対 象：精神分析に興味があり、臨床実践を行っている方（臨床経験の多寡は問いません）

講 師：仙道由香（新大阪心理療法オフィス）

司 会：福本 修・奥寺 崇

討 論：奥寺 崇

参加人数：25名

企 画 者：福本 修

担当委員：福本 修

（4）学際的ワークショップ「精神分析の知のリンクにむけて」

—第4回『精神分析と人文学』—

目 的：第四回のワークショップでは、精神分析という方法を生み出した文化・芸術的背景と、精神分析が人文諸科学に及ぼした影響を考えることにします。

今回は、多くの臨床家にもインパクトを与えた『フロイトのイタリア』の著者であり、現代イタリア思想、美術史の第一人者である岡田温司氏と、『判断と崇高』の著者でありフランス現代思想に精通した気鋭の哲学者の宮崎裕助氏を発表者としてお招きします。司会は小寺財団理事長の藤山直樹、指定討論は当ワークショップのコーディネータの十川幸司が担当します。

開催日時：2019年9月22日（日）13:00～17:00

開催場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

参加対象：精神分析に関心をもつ方はどなたでも参加できます。

発表者：岡田温司（京都大学大学院）
：宮崎裕助（新潟大学）
司 会：藤山直樹（個人開業）
討 論：十川幸司（十川精神分析オフィス）
参加人数：37名（うち学生6名）
企 画 者：十川幸司
担当委員：十川幸司

(5) 心理臨床家のための力動的精神病理学入門 4（開催中止）

開催日時：2020年3月20日（祝・金）
開催場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター
参加対象：臨床心理士・精神科医
講 師：妙木浩之・加茂聡子・渡邊衡一郎・吉村聡・小林陵・千葉ちよ
申 込 者：43名
企 画 者：妙木浩之
担当委員：妙木浩之

※Covid19感染拡大防止のための外出自粛要請発令のため、開催を中止し、参加費を振り込まれた28名に返金しました。

(6) 力動的家族臨床入門（第2回）

目 的：昨年に続いて力動的家族臨床の考え方を紹介し、講師の実際の面接を紹介し、解説を加えることで、その方法の基本的な考え方を理解していただければと思っています。

開催日時：2020年3月8日(日) 10:00～16:00
開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム
参加対象：力動的家族臨床に興味のある方、職種は問いません。大学院生も参加可能です。
講 師：中村伸一
参加人数：14名
企 画 者：中村伸一
担当委員：中村伸一

II. 出版・広報事業

ホームページの充実、メールによる情報発信の準備
担 当：福本 修